

戦略
1

幼児期にふさわしい体験を通して就学前教育の充実を図り、心豊かでたくましい園児の育成

戦略達成のストーリー

グローバル化が進む時代において、多文化共生社会をたくましく生きる園児の育成を目指し、幼児期の終わりまでに育てほしい姿を意識した教育活動を実践し、小学校教育へのスムーズな移行を図っていく。また、伝統行事や優れた日本の文化に楽しみながら触れることで、挨拶や礼儀作法の大切さを幼児なりに理解できるような園児を育成していく。

現在の姿

【保育の質】園児が小学校教育へスムーズに移行ができるように、就学前教育のカリキュラムを整備する必要がある。また、多文化共生社会をたくましく生きる園児の育成を目指して、日本の伝統行事に親しめるように努めている。

現在の指標

就学前教育カリキュラムの整備
未整備

挨拶・礼儀作法・身辺自立指導カリキュラムの整備
未整備

日本の伝統行事指導カリキュラムの整備
未整備

グローバルカリキュラムの検証・改善
未整備

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
就学前教育の検討					
就学前教育の実践・ブラッシュアップ					
日本の伝統行事の実施・指導					
年間のカリキュラムの中で各学年に応じた指導(挨拶・礼儀作法・身辺自立)の実施					
グローバルカリキュラムの検証・改善					

達成後の姿

【保育の質】園児の発達に応じた就学前教育のカリキュラムが実施され、遊びを通して主体性が生まれ、思考力と判断力、豊かな感性と表現力、多様性を受け入れる思いやりの心が育っている。また、日本の伝統行事の大切さを理解し親しんでいる。さまざまな行事や日常の保育を通じて、挨拶や礼儀作法、身辺自立が身についている。

評価指標

就学前教育カリキュラムの整備
85%

挨拶・礼儀作法・身辺自立指導カリキュラムの整備
50%

日本の伝統行事指導カリキュラムの整備
85%

グローバルカリキュラムの検証・改善
整備完了

戦略
2

国学院ブランドの確立と地域社会および保護者への周知

戦略達成のストーリー

預かり保育の時間の拡大や預かり保育後の送迎バスの運行など、保護者のニーズに合った預かり保育を実現していく。また、ホームページやSNSでの情報発信の工夫や地域園庭開放「ママとなかよし会」の定期開催、保護者や地域の方々を対象とした「子育て支援講演会」を大学との共催で実施するなど地域の子育て支援に貢献していく。

現在の姿

【園児募集】未就園児クラスを含めて、入園者数を増加させる必要がある。
【子育て支援】保護者のニーズに寄り添った預かり保育の充実とともに、地域園庭開放の定期開催や大学との共催による「子育て支援講演会」の実施を検討している。
【広報活動】最も効果的と思われる情報発信ツールであるホームページの改善を進めている。

現在の指標

新入園者
21人
ひよこ組入園者
10人
ひよこ組からの入園者
15人

ホームページセッション数
14,000件
「ママとなかよし会」満足度
調査未実施
預かり保育利用者満足度
調査未実施

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
預かり保育の多様化(日数・時間・送迎)					
新ホームページ(SNS含む)の検討・立ち上げ準備					
地域園庭開放「ママとなかよし会」の充実(日数・内容)					
在園保護者向け国学院大学見学会の実施					

達成後の姿

【園児募集】未就園児クラスを含めて年々入園者が増加し、地域に根差した「国学院ブランド」の幼稚園としての評価が向上している。
【子育て支援】さまざまな行事や企画を通して、保護者や地域の方々の子育て支援に貢献することができている。
【広報活動】ホームページやSNSを通じて、保護者および地域の方々に向けて幼稚園の特色や活動を広く発信できている。

評価指標

新入園者
34人
ひよこ組入園者
25人

ひよこ組からの入園者
18人
ホームページセッション数
16,000件

「ママとなかよし会」満足度
70%
預かり保育利用者満足度
70%

戦略
3

各年齢の発達に応じた保育カリキュラムの構築

戦略達成のストーリー

現状では年間指導計画をベースに学年ごとの詳細カリキュラムへの落とし込みを行っているが、学年別の保育カリキュラムを構築し、教育課程に沿った3年間を見通した指導計画への移行を図っていく。また、学年別保育カリキュラムの構築と並行して、DX化やICT環境の整備を行い、ICTを活用したカリキュラムを導入していく。

現在の姿

【保育の質】学年別カリキュラムは未完成であり、引き続き完成を目指し進めている。
【DX/ICT】ICT教育に必要なハード面の整備とともに、カリキュラムへの導入の検討を行っている。

現在の指標

学年別カリキュラムの整備 **未整備**
DX・ICT環境（ハード面） **75%**
ICT教育カリキュラムの整備 **未整備**

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
教育課程に沿った学年別カリキュラムの検討			教育課程と学年別保育カリキュラムとの整合性を図り、意図的・計画的な保育を実施	
ICT教育カリキュラムの検討			ICT教育の実践・ブラッシュアップ	
DX・ICT環境の検討（ハード面）	DX・ICT環境の導入（ハード面）			

達成後の姿

【保育の質】教育課程に沿った学年別カリキュラムが構築され、そのカリキュラムを全教職員が理解し、教育活動を行うことで、園の幼児教育の質が向上している。
【DX/ICT】DX化が進みICT教育環境が整備され、ICTを活用した教育カリキュラムを実践している。また、教職員はICT教育に関心を持ち、常にブラッシュアップも行われている。

評価指標

学年別カリキュラムの整備 **90%**
DX・ICT環境（ハード面） **導入完了**
ICT教育カリキュラムの整備 **90%**

戦略
4

法人設置校のスケールメリットを生かした環境整備

戦略達成のストーリー

最大のスケールメリットである国学院大学との連携を強化し、人間開発学部の教員による正課・課外活動や大学部会との連携による独自プログラムを実施することで、地域の中でも魅力ある幼稚園として差別化を図っていく。また、法人連携企業とのスポーツカリキュラムを通して、心身ともに健康で礼儀作法を身につけた園児を育成していく。

現在の姿

【連携事業】法人が連携している企業の協力を得て展開しているスポーツカリキュラムが、保護者から支持を得られている。
【法人連携】人間開発学部や大学運動部との連携をさらに強化させることで、法人設置の幼稚園としてのスケールメリットを生かせるように取り組んでいる。

現在の指標

人間開発学部学生受入数 **8**人（延べ数）
法人連携活動の実施 **未実施**
部会連携独自プログラム実施回数 **2**回（2部会）
法人連携企業との活動実施 **2**種目

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
人間開発学部との連携強化（奨学生・教育実習・インターンシップ・ボランティア）				
部会とのスポーツカリキュラム（正課）検討	部会連携独自プログラム（正課・課外活動）の実施およびブラッシュアップ			
法人連携による正課・課外活動の実施検討		法人連携による正課・課外活動の実施		
法人連携企業とのスポーツカリキュラムの実施検討		法人連携企業とのスポーツカリキュラムの正課・課外活動の実施		

達成後の姿

【連携事業】法人が協定を締結している企業との連携がさらに進展し、充実したスポーツカリキュラムが実践されることで、心豊かでたくましい園児の育成に貢献している。
【法人連携】人間開発学部や大学部会との連携がさらに深化することで、大学教員や大学部会との正課や課外活動が実践され、法人設置の幼稚園として独自の特色あるプログラムを展開している。

評価指標

人間開発学部学生受入数 **11**人
法人連携活動の実施 **3**回
部会連携独自プログラム実施回数 **4**回（4部会）
法人連携企業との活動実施 **3**種目

戦略

5

研修制度の確立とコミュニケーションの強化

戦略達成のストーリー

園内研修の実施に加え、担当する学年や園実務に必要な研修を実施することで、より効果的に保育の理論を学ぶとともに、保育スキルの向上を図っていく。また、園内では補えない内容については人間開発学部からの支援や外部研修を活用することで、教員一人ひとりの指導力が向上し、積極的に園運営に参画する人材が育っている。

現在の姿

【教員組織】園内研修は定期的実施しているものの、経年に合わせたカリキュラムは未整備であり、体系的な研修カリキュラムを構築する必要がある。

【コミュニケーション】教職員は日常業務に追われているため、教職員全体での打ち合わせなどコミュニケーションが図れる時間の確保が一層求められている。

現在の指標

園内研修開催数	外部研修参加回数
12 回	0 回
園内研修計画の整備	研修カリキュラムの整備
未整備	未整備

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
園内研修の定期的な実施		園内研修の見直し		
		研修カリキュラム(教材研究・保育方法等)の検討・見直し	研修カリキュラム(教材研究・保育方法等)の実践とブラッシュアップ	
自己研鑽の励行		保育の専門性を学ぶ 研修・研究を励行・ 成果発表の実施		

達成後の姿

【教員組織】年齢や年次に合わせた研修カリキュラムが整備され、保育方法や技術など必要な知識やスキルを身につけている。

【コミュニケーション】業務の改善が行われ、コミュニケーションが密に図れるようになるとともに、教員同士が学んだ知識やスキルなどを互いに情報共有し、学び合いができています。

評価指標

園内研修開催数	外部研修参加回数
12 回	7 回
園内研修計画の整備	研修カリキュラムの整備
75%	90%